

耐震性高めるには？ 朗読劇で解説

住まいのクリニックセミナー
「地震に強い建築 リノベーション」

2月23日(日)午後6時～



天野輝久さん (工学博士) 河口洋一郎さん (アーティスト) 今川憲英さん (外科医的建築家)



照屋寛公さん (建築家) ささきのそみさん (声優) 金田アキさん (声優)

声優の朗読劇とディスカッション

地震への関心と共に、中古住宅を資産として次世代に引き継ぐ「リノベーション」の動きが高まっている。2月23日(日)、「第20回住まいのクリニックセミナーin沖縄『地震に自信を。』地震に強い建築リノベーション」が開かれる(エンジン01文化戦略会議主催)。時間は午後6時～8時30分。会場は、沖縄県立博物館・美術館2階講堂。

中古住宅を現代の耐震性能とライフスタイルに合った価値にする「建築リノベーション」について、2人の声優が朗読劇で分かりやすく説明。建築の専門家であるパネリストらが、リノベーションについてディスカッションを通して解説。入場無料。定員200人。申込先：㈱ISGW 末吉将大(電話=03・5217・2620 メールsueyoshi@isgw.co.jp)

18日から今川憲英さん作品展

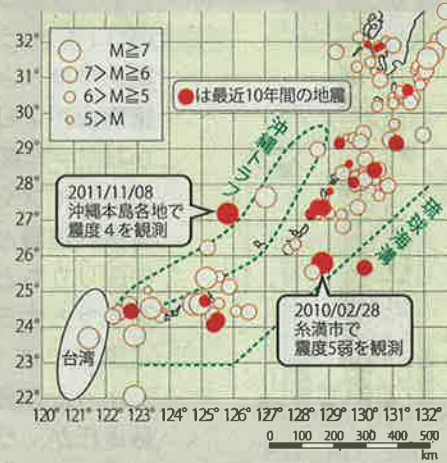
セミナーに先駆けて2月18日(火)～23日(日)、日本を代表する耐震設計者の一人、今川憲英さんの作品展を開催(場所：カメラのモリヤマARTギャラリー 那覇市東町19-22)。また、2月22日(土)午後5時～、今川さんのギャラリートークがある。入場無料。



今川さんが改修した横浜赤レンガ倉庫。ユネスコ文化遺産保全のためのアジア太平洋遺産賞日本初受賞

地震が来る可能性は？

震度4以上の地震の震源(1926～2012年)



沖縄県建築設計サポートセンターテキストより

1926年以降に、南西諸島周辺で起こった地震の震源の分布図。本島や先島地方近海でもマグニチュード6以上の地震が頻発している。

地震の起きた位置とマグニチュードを使い、県内各地の地震の強さの期待値(ある期間内におこる最大値の予測値)を求めたところ、200年に1度、本島付近は震度5弱程度、先島地方は震度5弱～5強が起こる可能性があることが分かりました。本島よりも先島地方で、より強い地震に見舞

われる可能性があります。注意が必要なのは？ 強い地震を生じる可能性も。沖縄本島や南西諸島は琉球海溝や沖縄トラフに囲まれていて、その付近で強い地震が生じる可能性があります。1926年以降の地震の震源地を見ると、南西諸島では、宮崎県沿いの日向灘から奄美大島付近と、先島諸島から台湾にかけての地震が多いですが、小さな地震を含めると、本島付近でもほぼ均一に発生しています(上図)。

沖繩に地震は来るのか。注意が必要なのはどんな建物か。耐震性を高めるためにすべきことは？ NPO法人沖縄県建築設計サポートセンターの天野輝久工学博士(琉球大学名誉教授)に、「沖縄での地震の可能性や住まいへの対策」を聞いた。(栄野川里奈子)

地震の起きた位置とマグニチュードを使い、県内各地の地震の強さの期待値(ある期間内におこる最大値の予測値)を求めたところ、200年に1度、本島付近は震度5弱程度、先島地方は震度5弱～5強が起こる可能性があることが分かりました。本島よりも先島地方で、より強い地震に見舞

注意が必要なのが、新耐震設計法が施行された1981年以前の建物。「極めてまれに起こる地震で、建物が損傷しても命は助かるよう瞬時には崩壊しないようにする」という基準がなく、建物によって耐震性に問題があるものも定によっては耐震改修を行うことが肝要です。

意識し備えを

1981年以前の建物は注意

沖繩に地震は来るのか。注意が必要なのはどんな建物か。耐震性を高めるためにすべきことは？ NPO法人沖縄県建築設計サポートセンターの天野輝久工学博士(琉球大学名誉教授)に、「沖縄での地震の可能性や住まいへの対策」を聞いた。(栄野川里奈子)

耐震性の設計基準は、本州太平洋側の標準値1・0に対し、沖縄は地震危険度から0・7が採用されています。ここ100年近い観測データから判断すると、現在の設計基準に沿った建物の耐震性は十分確保されていると考えます。